

第4回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 議事録（概要）

1 日時

令和4年（2022年）7月25日（月）10時00分～正午

2 場所

県庁新館2階 職員研修室

3 出席者

八幡英幸委員、出川聖尚子委員、野口泰喜委員、藤本英行委員、足立國功委員、大平雄一委員、音光寺以章委員、吉永公力委員、本田裕紀委員、原公德委員、作田潤一委員、牛田卓也委員、田中篤委員、池田廣委員、田中万里委員、松島雄一郎委員、夏木良博委員（計17人）

4 概要

（1）開会

（2）出席者紹介

事務局が出席者紹介をし、設置要項第6条第2項の規定に基づき、本会が成立することを報告した。

（3）日程説明

事務局が会次第の説明をした。

（4）会議の公開・非公開

八幡会長が運営要領の第5の規定に則り、会議の公開・非公開について諮った。委員から異議なしで公開を決定した。

（5）議事

- 第3回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会の論点整理等について
- 入学者選抜制度の今後の方向性について

<配布資料>

- ・第4回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 会議次第
- ・「各高等学校のスクール・ミッション等（令和4年3月 熊本県教育委員会）」

【事務局】

資料1により第3回検討委員会の論点について説明した。

【事務局】

第3回で質問のあった千葉県の制度変更及び周知期間について、3年間の周知期間を設けて現行制度に移行したことを説明した。

【八幡会長】

議論を十分に尽くすため、第3回で事務局から示された各都道府県の入試制度の5つのパターンを基に、第3回の論点も踏まえ、引き続き協議していきたい。5つのパターンを具体的にイメージすることで議論が深まると思われるため、事務局から詳しく説明いただ

く。

【事務局】

資料2、資料3、資料4、資料5及び資料6により各県の入試制度の具体例を説明した。

「各高等学校のスクール・ミッション等」により第3回で協議に挙げたスクール・ミッションとスクール・ポリシーについて補足説明した。

【夏木委員】

宮城県の2つの高校の例について、一方は面接が検査項目にあるのに配点に反映されていないということか。

【事務局】

片方の学校は100点配点し、片方では点数化されていないということで学校ごとに決めることができるという制度になっているようである。

【牛田委員】

大分県の推薦入試Bは、大分県の全ての学校・学科が推薦入試を実施しなければならぬということか。やらないという選択肢はないのか。

宮城県の共通選抜と特色選抜は、全ての生徒が必ず選考対象になるのか。生徒が特色選抜の方は対象にならないというような意思表示ができるか。

【事務局】

大分県の推薦入試Bは、推薦入試A実施学科及び爽風館高校を除くすべての学科となっており、すべての学校で実施されている。

宮城県については、生徒がどちらかの選抜を選択するというのではなく、出願すると学校が定めた選考の方から先に選抜をされ、全員が両方の選抜の対象となる仕組みになっている。

【田中篤委員】

佐賀県も宮城県のような選考をするのか。

【事務局】

佐賀県も生徒が選択するというのではなく、先に選考Ⅰを実施して次に選考Ⅱを実施するというように県で定められている。

【夏木委員】

推薦入試等を実施するということになった場合、調査書等の内容も変わってくると思う。現状は、スクール・ミッション等に対して、評価が反映できるような調査書の内容になっているか。

【事務局】

本県の前期（特色）選抜においては、各学校が示す重視する観点に基づき、各生徒が志願するという形になっており、その中で調査書の取扱いについても各学校に示している。

【本田委員】

小学校の授業はすでにコンピテンシーベースに変わっているが、調査書でもその流れを反映していくのか。GIGAスクールで学習も変わってきている。その点を踏まえた県の考えや新学習指導要領が求める学力をうまく生かしている他県の例があれば聞きたい。

【事務局】

その点は、この会でいろいろな御意見をいただきながら検討させていただきたい。

【作田委員】

県内の中学校長の代表の先生、郡内のPTAの代表の方から意見を聞いてきた。公立中学校は地域の子供達と一緒に学ぶ最後の機会。卒業後社会に出る子供も少数いる。中学校3年間の学習、3年生の学習や教育を重視して欲しいという意見が保護者からある。

中学校の授業時数は、3月までの教育活動が前提。中学校での教育活動を充実して高校や社会に送り出したいので、入試は3月上旬に設定してもらうのが適当と考える。あまりに早く進路決定した生徒の学習意欲が減退している状況もある。

入試の回数が多いことで、手続きに追われ、心が揺れ動き、じっくり将来について考えて進路を選択することができないという保護者の意見がある。

学力だけでなく、多様な資質や能力や意欲を評価するような選抜方法も是非取り入れていただきたい。重視する点を明確に打ち出した方が多様な資質・能力を見る入試になると考える。パターン4がよいと思う。

私立とも入試日程の調整を行い、できるだけ中学校の学習や学びが充実するような入試日程を組んでいただきたい。

【松島委員】

入試を経験していない保護者には現行制度に若干のわかりにくさがある。子供が高校入試を経験している保護者は、特色を評価する機会が増えることには歓迎的。学校現場からは、一本化、入試時期はあまり早くない方がよいと聞いている。総合すると、パターン4がよいという声が多い。

【野口委員】

二次募集で、高校が合格者を出して、最終的に何割ぐらいの方がそこに合格されて入学されたのかなど把握できていれば知りたい。

【事務局】

令和4年度入試においては、二次募集の募集人員は2,912名、出願者数は126名であった。

【作田委員】

これまで関わった中で、私立に進む者、公立の二次募集を受けて進む者がおり、どこにも行けなかったという生徒は今までいない。

【池田委員】

私学の二次募集の実施状況は把握していない。私学で二次募集を実施する学校はほとんどなかったのではないかと思う。

【野口委員】

人権擁護委員の立場で、合格できなかった生徒がいる場合、どこにも属さずに生活して行くことになるため、どうしていった方がよいかを聞きたかった。

【八幡会長】

入試の変更が行われた場合、それが二次募集にどんな影響を及ぼすのか、中学生の進路に最終的にどんな影響を及ぼすのかは気になるところである。

【田中万里委員】

P T Aの役員や保護者、子供たちに話を聞かせてもらった。前期（特色）選抜で合格すると、安心し、生活態度が乱れたという声が聞かれた。後期（一般）選抜を目指す生徒からは、前期合格者が授業で不真面目になる子が多いと聞いた。保護者からは、学校としての指導も大変になるのではないかという意見。

保護者が一番心配しているのは、制度が変わる時期。丁寧に詳しく早めに説明をしてほしい。

私立は夏休みに見学会などを実施し、魅力を伝えている。公立と私立の差があまりにもあるのではないかという意見がある。

【八幡会長】

周知の件については、千葉県で3年間周知期間を取っているのは丁寧であるという印象を受けた。

【吉永委員】

保護者からは、今年は入試の時期が早くなり、手続きが大変だったと聞いた。近隣の県立高校の校長からは、予算に限りがあり、P Rに苦労していると聞いた。定員割れしている学校では、中学校で不登校だった生徒を大事に教育していて、特色の一つになるのではないかという話も聞いた。

【牛田委員】

前期（特色）選抜は、高校側の負担が大きいというのが多くの校長から聞かれる。郡部の校長からは、入試制度や日程を変更する場合は、学校への影響を踏まえ、配慮をお願いしたいという声が聞かれる。生徒からは、普通科では1回しか受検機会がないのは不公平ではないかという声が聞かれる。

高校側は入試にスクール・ミッションを反映できない、生徒側はスクール・ミッションを反映した入試が受けられないという状況。何らかの形で高校が自校の教育方針に沿った入試を選択できる形がよいのではないか。その点、宮城県のやり方は工夫されていると思う。

【八幡会長】

日程が定員確保に与える影響についてもう少し具体的にはどのような配慮が必要か。

【牛田委員】

例えば入試を同一日程で行い、3月上旬に行うと、私立が1月に入試をするとそこで決まってしまうので、3月まで受検生は待ってくれないのではないかという懸念の声がある。入試を一本化する場合は、私立との調整をしっかりとやっていただきたいということが念頭にある。郡部の高校でも一本化された入試を生徒が受けてくれるかという心配があるようだ。

【音光寺委員】

教育長の先生方や校長先生方からは、前期（特色）選抜と後期（一般）選抜を分けている必要性があるのかという意見がある。前期（特色）選抜で不合格だった生徒も結局、後期（一般）選抜では合格している状況。このことから入試は1日（1回）でよいのではないか。千葉県のように学力検査は1日で済ませて、前期（特色）選抜は、ほとんどの学科が面接や作文を行っており、そういう高校は、2日目の午後からスクール・ミッションに合わせた特色ある検査をした方がよいのではないかと。

中学校は教育課程をしっかりと学ばせて送り出したいので、入試は3月に実施してほしい。学習したことを発揮できるよう、学力検査はやるべきではないか。入試がどんどん早くなり、進路について考える時間が限られている。生徒の立場に立って、県と私立で相談して、入試の日程について検討していただきたい。

【大平委員】

制度を変えた県の検証が見えてこない。私立の校長先生とお話すると、私立高校は県立高校の入試日程が前倒しになったことで生徒確保に危機感を持っている。いろいろな良い取組をしても、入試日程と合格発表に大きな比重があるのではないかと。

【八幡会長】

効果の検証には時間がかかるかと思うが、検証が始まっている県の情報があるか。

【事務局】

制度変更があったいくつかの県ではまだ検証には至っておらず、これから振り返りを行っていくと聞いている。

【八幡会長】

制度変更の影響は長期的に出てくるので検証は短期的には難しいが、デメリットなどは反映させられるだろうと思う。そういう情報があれば次回でも提供いただければ参考になる。

【田中篤委員】

制度変更した県の各学校の受検者数の変化を知りたい。入試制度の変更によって郡部の定員割れが加速するようなことにはならないようにしてほしい。受検回数が減ることに対して受検性に不安はないのだろうかと思った。二次募集は定員割れをしている学校にとっては大きな生徒確保の機会でもある。受検回数が増えた場合にも、定員割れしている学校は今の二次募集にあたる制度をうまく活用していくという方向になるだろうと思うので、引き続き議論が必要ではないかと。

【夏木委員】

文化、芸術、スポーツ等で特に評価される生徒を地域で支えて、地域に還元するという観点で特別入試制度の検討が必要と思う。本県の国際化も踏まえて、外国語等についても、英語だけでなく才能を発揮している生徒を評価するということも必要ではないか。その点でも特別入試制度についてしっかり議論していただきたい。

【八幡会長】

スクール・ミッションに地域社会の大きな変化がどこまで反映されているのかは気になる。スクール・ミッションは、どの程度の頻度で更新されるのか。

【事務局】

スクール・ミッションについては定期的な見直しのルールはない。学科改編や学校の中で目指すものが変わったりすれば見直していくことにはなると思う。

【八幡会長】

高校側として時代の変化に合わせてスクール・ミッションを更新したいということであれば更新していけばよいのではないかと思う。そうして個性化が図られるし、将来を見据えた教育につながっていくのではないか。

【牛田委員】

スクール・ミッションを受けて作ったスクール・ポリシーは、ある程度見直しが必要だとは思っている。本校でも、今年度スクール・ミッションとスクール・ポリシーを具現化するためにいろいろ取り組んでいる。社会が大きく変化しているため、必要な変更については教育委員会と検討していきたい。

【池田委員】

元々県立高校が二次募集の追試の日程を確保するため1週間前倒しで行うという相談があり、私学もそれに対応して日程が早くなっていったというのが現実。もし県立の入試が3月上旬などに一本化されるのであれば、私学はまた2月頃に実施するということは当然考えていかないと、1月の私学の入試は中学校の12月までに学習した範囲で入試問題を作成するというかなり苦しい状況。県立の入試日程次第で私学が2月以降に戻るとするのは十分可能と思う。

定員を減らすことは経営に直結するので簡単ではないが、子供の数を踏まえると定員を減らすことも考えていかなければならないだろうという話はしている。どう減らすかが問題。今後私学としても定員割れをしている学校について対応策を検討していかなければならないということを校長会で話している。

【足立委員】

スクール・ミッションやスクール・ポリシーを反映し、学校の特色に応じた生徒を選抜することが大事だと思う。アドミッション・ポリシーを見ると、地元で貢献できる人材といった内容も出ており、ありがたい。そういう生徒を選抜できる方法があれば産業教育振興会としても全面的に周知していきたいため、ぜひ検討いただきたい。まずは、アドミッション・ポリシーによる選抜の仕方があるのかどうか検討いただきたい。

【八幡会長】

アドミッション・ポリシーと入試の方式が連動しているという事例があるか。

【事務局】

アドミッション・ポリシーが直接入試制度に反映されている例は今のところ把握していないが、宮城県の資料には「求める生徒像」が冒頭にあり、それを踏まえた選抜の方法というのは意識された形でつくられているのではないか。

【八幡会長】

宮城県では、「特に、特色選抜においては、上記の1及び2の全てに当てはまる生徒を重視します」とあり、このような連動がよく見えるようになると、高校の個性や求める生徒の個性がはっきりしていくのではないかと。

【藤本委員】

入試を1回に絞り、日程をなるべく遅く、生徒が進路について相談する時間を確保するという事で、郡部の定員割れが顕著な中で、保護者も含め、地元の高校に目を向けさせることにつなげてもらいたい。中学校では時間があれば、地元を目を向けさせるきっかけづくりが可能か。

【作田委員】

3年間かけて地域に貢献する、地域にある学校の良さを知るといふ教育活動は行っている。今おっしゃったように、入試の事務手続きや入試に関するこの取り組みの中で少し余裕を持って考える時間が出てくるので、学校の中で子供と話をする時間が取れると思う。

【田中万里委員】

今回の検討は、郡部の高校の定員割れの解消につなげるためというのが一番にあると思う。上天草市では行政をあげて地元の高校をPRしている。予算もつけて月2万の支給、受験指導体制も作っているが、地元の高校に進む割合はとても少ない。子供たちが地元以外の高校に行きたいという気持ちが高い。受験方法を変えたからといって地元の高校に行く子供が増えるかはまだ疑問。地元の高校の魅力発信がやはり重要ではないか。

【八幡会長】

全体としては入試日程や入試方式の大枠の話をデザインし、その中で魅力化についてもどのような範囲でできるかという問題になってくるのではないかと。

【原委員】

目標を持ってない子供、特別な支援を必要とする子供が、入試制度改革によってなおざりにされることはあってはならないと思う。救わなければならない生徒が救われる制度であってほしい。

県南・県北の学校の校長から、鹿児島や福岡の高校を受ける生徒もいることから、入試制度を大きく変えることでずれが生じることを心配しているという声がある。

【八幡会長】

特別な支援が必要な生徒への配慮についてはこれまで話題になってこなかった点。

【出川副会長】

別件の会議の中で、支援が必要な子供の8割程度が個別の支援計画を持って進学や将来を考えるという話があったので、ある程度は小中高で情報共有があり、連携されていると考えているが、支援計画や支援の対象となっていないが心配のある子供に関しては、通常の学級で丁寧に関わり、進路指導し、高校に進んで高校でどうなっているかは、中学校では把握が難しいのではないかと。

【吉永委員】

スポーツ重視に関して、今後部活動が地域移行になると、影響が出てくるのではないかと。郡部の学校では合同でないとやっていけない場合もあり、実績をアピールする機会が減るのではないかと。

九州の4県が推薦入試を行っているが、何か理由があるのか。

【事務局】

理由については把握していない。本県の場合は、学校長の推薦がなくても、多様な能力、適性等を生かせるようにという趣旨で推薦入試から特色選抜に移行した。例として九州を挙げているが、九州以外でも推薦入試を実施しているところはある。

【牛田委員】

スポーツ重視の入試については、それぞれの学校のミッション、目指しているものによるため、学校によって受け止めは様々。一律に入れるのではなく、それぞれの学校で実施するかどうか選べるようにすることがよいと思う。

市立高校が入試改革をするという動きが報道されている。現在は県立と同じ日程で同じ問題を使用しているが、今後はそこも含めてあり方を検討されると聞いたので、そこも踏まえて当会も検討した方がよいのではないかと。熊本市の情報があれば次の会で知らせてほしい。

【松島委員】

スポーツ庁の方との意見交換の中で、部活動の地域移行が進めば、スポーツ関係の職業が増えるのではないかと話が出た。スポーツ、芸術、文化を含めて、子供たちが学校を選ぶうえで特色が有効だと思う。

【八幡会長】

本日の御意見を次回までに事務局にまとめていただく。

【事務局】

次回の検討委員会までに事務局で論点整理をする。

【事務局】

次回は9月中を目途に開催を予定している。詳細は書面にて改めて連絡する。

【事務局】

これをもって第4回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会を閉会する。

以上